

ジュニア選手の発掘・育成

ジュニアスポーツの普及・育成

【ジュニア育成地域推進事業】

ジュニアスポーツの普及とジュニア選手の育成を推進するため、区市町村においてスポーツ振興事業を実施

◇実施主体：地区体育協会（59地区）

◇対象：小・中・高校生、指導者及び指導者を目指す者

◇事業内容：普及啓発事業、発掘育成事業、指導者養成事業、ネットワーク事業

◇20年度予算：187百万円（各地区2.5百万円）

競技団体によるジュニア選手の強化育成

【ジュニア特別強化事業】

ジュニア選手の育成・強化を拡充

◇実施主体：各競技団体

◇対象選手：各競技において東京国体で活躍することが期待される小中学生・高校生

◇対象選手：約3,000人

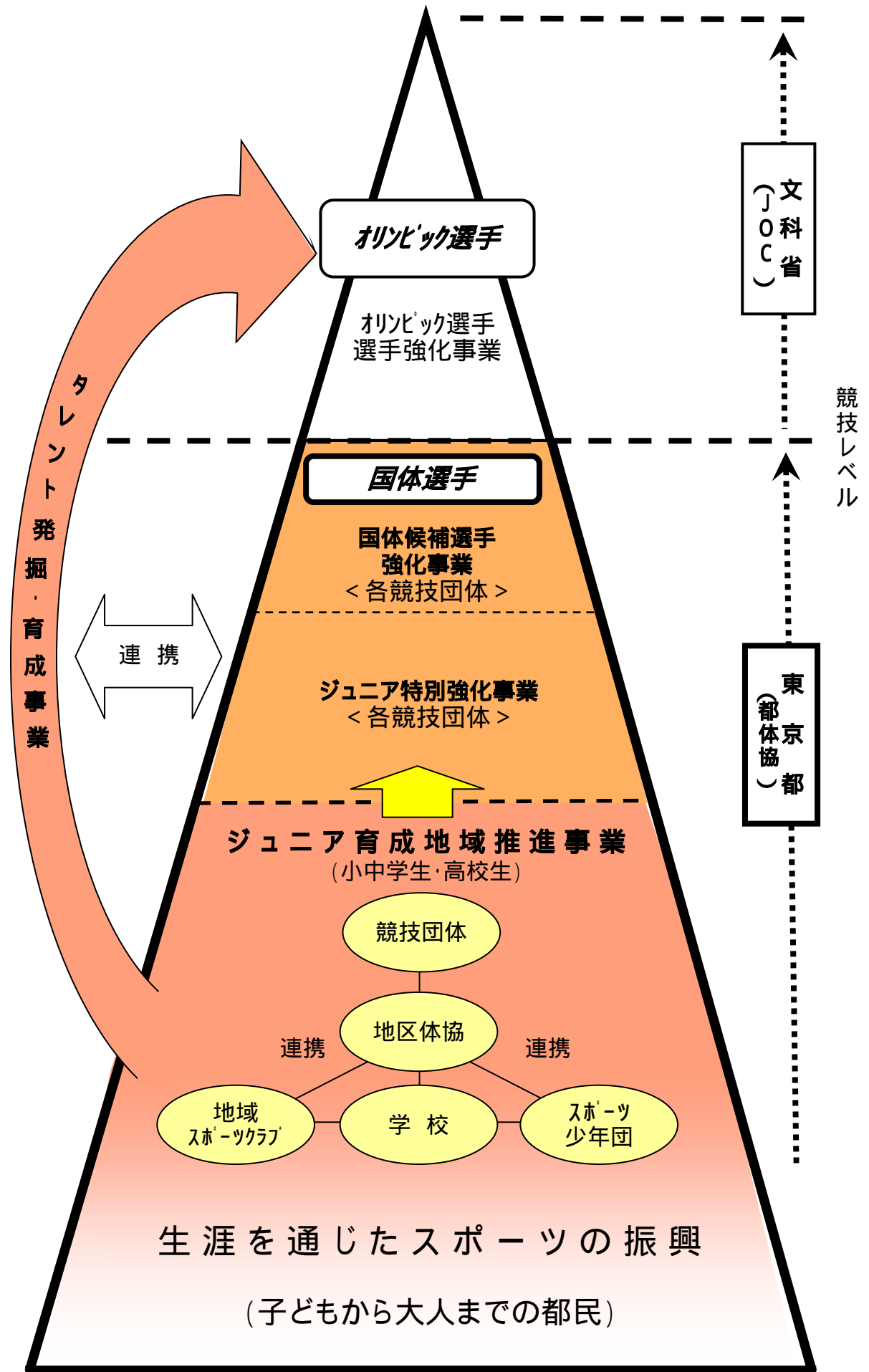
◇事業内容：強化練習、強化合宿、強化試合等

◇20年度予算：80百万円

ジュニア選手の発掘・育成

【タレント発掘・育成事業】

競技団体の取組み等では補足しきれない才能あるジュニア選手を発掘・育成し、その選手に最も適した種目を見出すなど、オリンピックなどの国際舞台で活躍が期待できる選手を「見つけ・育て・活かす」仕組みづくりを検討



東京都ジュニア強化選手、国体選手強化指導員の認定基準等について

東京都ジュニア強化選手

1. 目的

東京国体の主力となり得る選手層の育成による、ジュニア選手の競技力向上

東京で選ばれた選手としての誇りと自覚や、東京都選手として国体に出場する意識の醸成

2. 認定基準

都在住または、都内の学校・スポーツクラブ等に在籍し、東京国体で活躍することが期待され、認定について保護者の同意が得られる者

小学校4年生～中学校3年生で、心身ともに健康である者

競技団体が、強化練習等により、継続的に育成・強化を図っている者

全国大会、都大会等で顕著な成績を挙げている者等で、東京国体の中心選手となり得る者

3. 施策例

競技団体が実施する強化練習・合宿等への参加

認定証等の授与

ジュニア選手育成・強化のための講習会（食事や日常のコンディショニング等）

保護者サポートプログラム（栄養講習会・メンタル講習会等）

4. 認定手続

各競技団体の候補者リストに基づき、競技団体と協議の上認定

国体選手強化指導員

1. 目的

指導者の所属する学校・企業に対して、選手の強化に携わっているという立場を明確にすることによる指導環境の向上

重要な指導に当たる立場であるということの、本人の自覚と責任の喚起

2. 認定基準

競技指導者の資格を有する者等で、以下のいずれかの条件を満たし、競技団体が推薦する者で、認定について所属団体の理解が得られる者

- ・ 国体、国体関東ブロックの引率をする指導者（監督、コーチ、帯同するその他の指導者）
- ・ 国体選手及び候補選手に強化指導を行う指導者

3. 施策例

所属長・所属団体への協力依頼要請

認定証等の授与

都立高校教員への服務取扱いの配慮（職免）

4. 認定手続

各競技団体の候補者リストに基づき認定

認定する旨を8月から本人及び所属長に通知

大学等と連携したスポーツ医・科学サポートモデル事業の概要

1. 事業の概要

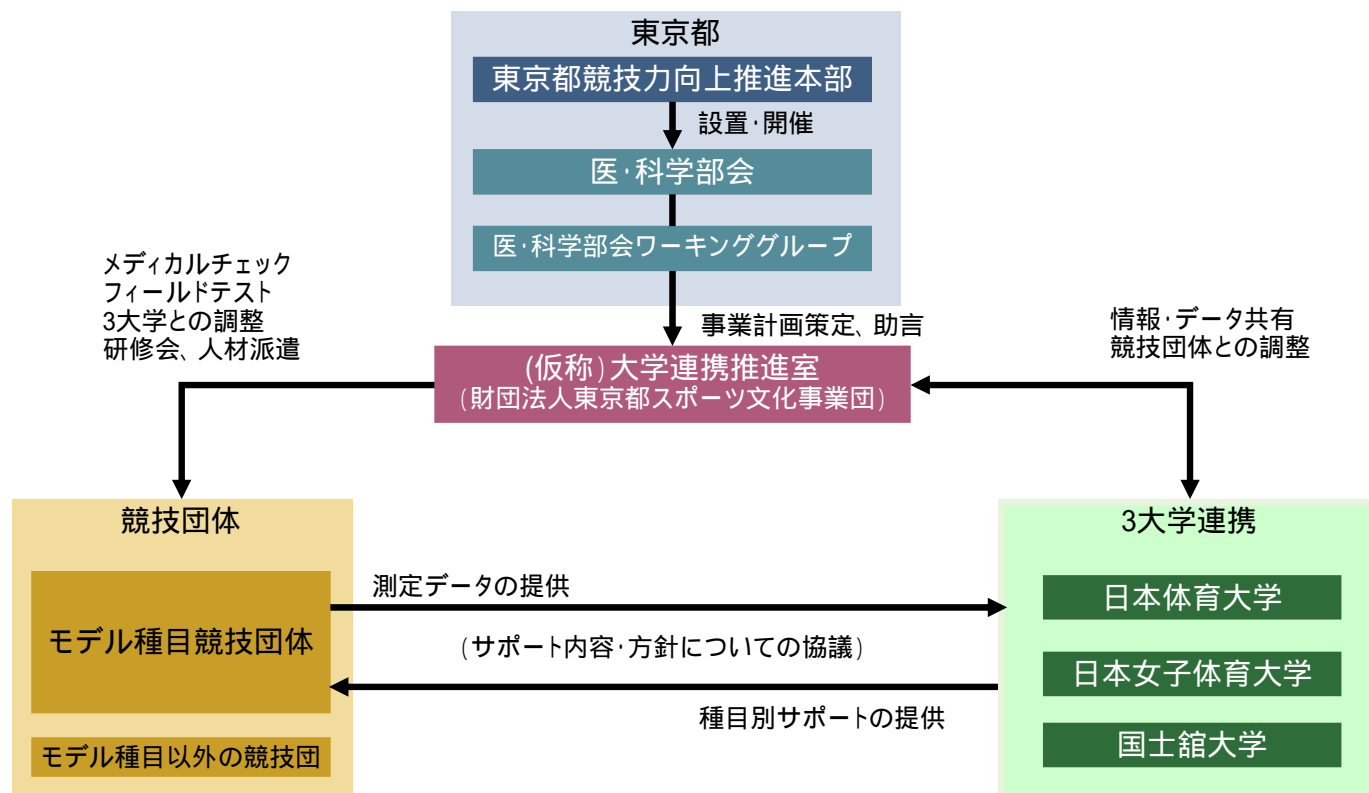
東京都競技力向上基本方針・実施計画に掲げられた「大学等と連携した測定や助言」の、具体的な仕組みづくりについて「医・科学部会ワーキンググループ」を設置し、東京都選手の競技力の現状、競技団体のニーズ、3大学のリソースなどについて分析・議論を行い、モデル種目、サポート内容・測定項目等について検討した。

平成21年度は、モデル種目を選定した上で、3大学の協力を得て、医・科学サポートを実施する。

○医・科学部会ワーキンググループメンバー（敬称略）

平野 裕一 独立行政法人国立スポーツ科学センタースポーツ科学研究部長（座長）
 伊藤 静夫 財団法人日本体育協会 スポーツ科学研究室長
 船渡 和男 日本体育大学 教授
 角田 直也 国土舘大学体育学部 教授
 田口 素子 日本女子体育大学 准教授
 中嶋 耕平 東京大学医学部 整形外科研究員

2. 事業実施体制



3. サポートの内容

- 本事業では、競技団体のニーズを踏まえて、強化選手に対して種目別サポートを実施
- それに先立ち、強化の前提となるメディカルチェックと基礎データとなるフィールドテストをサポートを受けるすべての選手に実施

(1) メディカルチェック

- ①問診票チェック、②胸部レントゲン、③心電図、④血液検査、⑤アラインメントチェック、⑥関節弛緩性テスト、⑦タイトネステスト

(2) フィールドテスト

- ①30メートルダッシュ、②反復横跳び、③立ち幅跳び、④メディシンボール投げ（女子3kg/男子4kg：前下投げ、後上投げ）、⑤最大挙上重量（ベンチプレス、スクワット）、⑥上体起こし、⑦握力、⑧20mシャトルラン

(3) 種目別サポート

平成21年度は、高校生を対象として、3大学の受入体制と競技団体のニーズを踏まえ、モデル種目を選定して実施

サポート・測定	目的	具体的な内容
コンディションサポート	種目特性の高い専門的な測定を行ない、選手の能力把握やトレーニング内容の検討・改善に活用	最大酸素摂取量測定 最大無酸素パワー測定 血中乳酸値測定 など
パフォーマンスサポート	選手の動作に関する測定や分析を行い、スキル、パフォーマンスの向上に活用する。また、選手個人やチームの課題、特徴を分析し、戦略の検討などに活用	動作解析 筋電図測定 床反力測定 ゲーム分析 など
トレーニングサポート	各種測定を踏まえて、トレーニング内容の改善・充実を図る。	トレーニングメニューの相談 大学生との合同練習 など
栄養サポート	通常のトレーニング・強化の土台となる食事に関する知識の充実を図るとともに、減量等、試合に向けたコンディショニングに関する相談等を実施	講習会の開催 個別のカウンセリング など
メンタルサポート	トレーニングの質の向上、試合でのパフォーマンスの向上とメンタルの関係についての知識の充実を図る。	講習会の開催 など